

# 館報

# おおくま

### おもな内容

- 2面……町民体育祭
- 3面……清流、人事消息
- 4面……講座、文化展
- 5面……産業、郡総体成績
- 6面……文芸
- 7・8面……みんなの広場

発行編集 大熊町公民館  
印刷所 新栄社写真美術印刷株



## 「体育の日」

「体育の日」にふさわしく  
秋晴の空がひろがった、  
職場のみんなが待っていた  
「職場対抗ソフトボール大会」  
がやってきました。

職場の名誉にかけても  
今年こそは優勝をと  
集まった三十七チーム  
どのチームも自信满满々  
試合開始を待つばかり

日頃の練習で鍛えられた  
技量と精神力を遺憾なく  
発揮し、一戦、一戦勝抜いて  
優勝杯を手にしたチーム  
おめでとう

善戦むしく敗れたチームの  
皆さん 御苦労様でした。

# 町民体育祭で熱戦

## 下野上区が優勝

町民総参加による恒例の大熊町民体育祭は、九月六日大熊中学校庭において盛大に開催された。当日は絶好のスポーツ日和に恵まれ、幼児から高令者にとりまして大勢が参加、中学生の吹奏楽演奏によって、入場行進が行なわれた。開会式には助役、町議会議長あ

区の青田善幸君の力強い選手宣誓が行なわれ、各競技に熱戦を展開され団体種目では部落民の団結と圧倒的な強さを見せた、下野上が優勝を飾り、優勝旗、優勝杯を授けられた。なお成績は次の通り。

三位 町区  
優勝 下野上区 準優勝 熊区

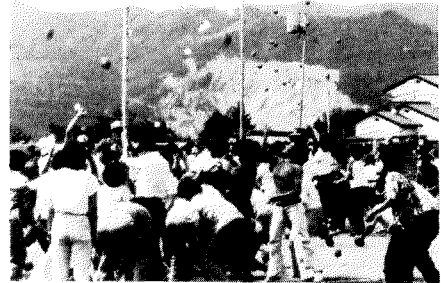
種目	部落	野上	下野上	駅前	大川原	熊	熊川	小入野	町	夫沢
壮年ソフトボール		4	10	9	8	6	4	4	4	8
家庭バレーボール		8	6	3	7	5	4	9	2	10
玉入れ		4	9	2	8	10	3		7	6
婦人消防隊		10	6	8	3	4	5	7	9	2
消防訓練		3	10	2	8	7	4	5	9	6
綱引き		2	6	2	4	10	6	2	8	2
100m (女)		2	5	2	3	4	2	2	0	2
100m (男)		5	2	3	2	3	2	4	2	2
200m (女)		2	2	2	3	2	2	4	2	2
200m (男)		2	4	2	2	5	2	2	2	3
部落対抗リレー(女)		2	10	3	6	7	5	8	9	4
部落対抗リレー(男)		9	10	8	6	7	3	2	6	4
合計		53	80	46	59	72	42	54	60	51
順位		6	1	8	4	2	9	5	3	7



高令者も腰をはし競技でハッスル

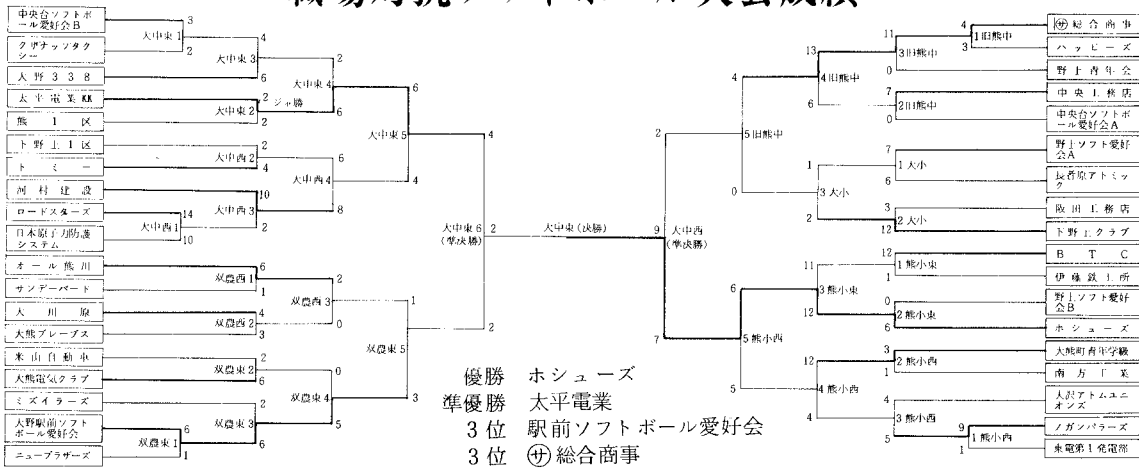


団体種目で活躍する婦人消防隊



▲部落採点種目の玉入れ競技

## 職場対抗ソフトボール大会成績



人事消息



教育委員の志賀栄子さんは九月三十日で任期満了となり退職いたしました。後任には志賀隆文さん(大川原一区)が選任されました。今後は学校教育並びに社会教育の振興のため活躍されます。

社会を明るくする運動 入選標語

毎年法務省が提唱し社会を明るくする運動を全国各地の人々の参加を得て展開されており、今年で三十一回を迎えます。わが大熊町においては、七月六日大熊町公民館において双葉郡内の関係者の方々が集り、青少年の非行防止など社会を明るくする運動の話し合いをいたし内容の充実した一日でありました。その中の一つとして大熊中学校、県立双葉農業高等学校の生徒の皆さんより入選標語がある。

りましたのでご紹介致します。

◎大熊中学校の部

一 気をつけよう心の鍵のかけ忘れ。

(一年 酒井 弘子)

二 語り合う明るい家庭に非行なし。

(二年 小野田洋美)

三 悪魔の手友情の手でふりはらい。

(二年 岡田富貴子)

四 非行へと追いやる前に愛の手を。

(三年 安田 典子)

五 ふみ入るな魔の手は君を放さない。

(三年 幾橋 智子)

六 温い親の出す手に明るく家庭。

(二年 斎藤 浩)

◎双葉農業高等学校生の部

一 悪いことしてから後悔間にあわす。

二 非行防止は愛の手で。

三 うしろ指、さされてからではもう遅い。

四 薬物乱用地獄があなたを待っている。

五 乗るな のせるな悪の誘いに。

六 もう一度規則規律を考えよう。

七 家庭の躰が生む犯罪。

八 「防ごう非行助けよう立ち直り」

清流

若い時はそうでもなかったが六十過ぎになると体力の減退を知らされる。何これしきの事と無理して腰を痛めたりする事が多いものです。殆どの人々は気持ち若いととき同じだが体が言うことを聞いて呉れないと言う現象を経験するはず。体力が衰え活動力が鈍って来る訳です。その人の能力は減退する一方かと考えられがちですが、そうではありません。「三歩進んで二歩無駄足」と言った現象がなくなり残された力を用いて深く行使することによって尚余力ありといった状態になるからであります。重い石を手で持ち



秋の夜長に思う

町議会議員 松本 六郎

運ぶことは出来なくとも一輪車かリヤカーを使えば運べると同じです。永い間の種々の経験と知恵で力の不足分を補うことが出来るからであります。若い時の力だけに頼る失敗とがむしろ行動から生ずる無駄も何回か繰り返すことに

するところ、常識域という全人類の一大聖域だと思っております。この世の中で絶対の善悪を仕訳することは極めて困難というべきであります。人を殺すことは絶対悪といわんか、自分が殺されそうになって防衛の一撃が相手を傷つ

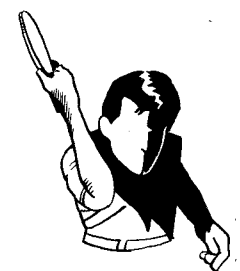
と考えることも少し無理だと思っております。では一体「常識域」とは何だということですが、私は常識情だと考えております。永い間の人類の生存に繁栄に必要な手段、方法、宗教、哲学等あらゆるものの集大成によってでき上った生活の知恵だと思っております。

人類がこの世で生きのびるためのものであります。常識が誕生したのであります。人類の発生から今日までかかって誕生した常識です。常識に非ずつかないようみんなて必至になって守ってゆかねばなりません。部落の平和のために町の繁栄のためです。

よってその人々への貴重な良薬となる訳です。経験、体験が貴いといわれる由縁でもあります。人生の経験、体験はその人々の過ぎたし生業によっても各々違ったものから一様には考えられません。いろいろなことを経過して漸く到達

けることだであるからです。国民の生活を良くするための経済政策が国民の大部分を救ったとしてもその政策のあおりを食って倒産一家心中といった状態も起こり得るからであります。時の総理や政治家を人殺しと呼ぶことも絶対悪

行事案内
十一月一日、二日、三日、第二体育館で県芸術祭(書道)が開催されますので、観覧をお待ちして下さい。



- 町民庭球大会
十月二十五日(日)午前九時
町宮野球場(雨天の場合十一月一日(日))
町宮テニスコート
(雨天の際は十一月一日(日))
高齡者大学
十一月二十七日(金)
若葉学級
十月二十九日(木)
町民マラソン、ジョギング大会
十一月十五日(日)午前九時大野病院前スタート
町民卓球大会
十一月十五日(日)午前九時
第一体育館



# 親と子の野外活動に

## 参加して

八月四日午前八時、私たち学級生と日焼けた顔をほころばせた子どもたち五十数名を乗せた大型バスは六号線を南へ南へ東京電力広野火力発電所見学、いわき七浜めぐりへと出発。

広野火力発電所斉藤課長さんの案内で所内を見学、五十万トンタンカーが二隻も並ぶ大棧橋さまさまな場合に対応できる諸施設、海側から望む火力発電所はオイルタンク、縦横に並ぶパイプライン等素晴らしい眺めでした。

遠く外国から運ばれた石油は横浜や小良浜港で積み替えられて広



▲親と子のつどい

野港に運ばれてくるとか、私達の生活にはなくてはならない電気、スイッチ一つで使える電気も、数多くの人々の働きによって生み出されているのだと知ったとき、電

気をもっともっと大切に使用しなければいけないと思いました。広野火力発電所をあとにしたバスは

### 最初は五十米を

### 目標に走ろう

沿の内弁財天、塩谷崎灯台を見学し薄磯海水浴場での親と子の風船割、海水浴、波とたわむれ流れてくるワカメとり等、楽しい一時を過ごした後、真夏の照りつく下でのスイカのおいしかったこと、薄磯の海辺でなければ味わうことができない思いでした。

三崎公園、小名浜魚センターでの夕食のおかず、そして土産と。

大熊町ジョギングクラブ「走友会」を結成しましたのでこの際同好の方の御入会をお奨め致します。老若男女、初心者どなたでも結構です。各人の体力に応じた距離とタイムで健康を培い、活力を養うことができます。

申込み  
大熊町公民館(電話二〇六五)

## 文化展 11月1、2、3日

会場 大熊公民館

### ◆絵画展

幼小中高生、一般の方々の作品を展示

### ◆生花展

流派をとわず学生、一般の方々の作品を展示

### ◆盆栽、盆石

盆栽水石愛好者、一般の方々の作品を展示

### ◆手芸、工芸

### ◆写真

一般の方々の作品を展示

### ◆出品物の搬入

十月三十日(金)午前九時から午後五時まで公民館へ

### ◆出品物の搬出

十一月三日(火)午後四時より

## ゲートボール 大熊町にもクラブ誕生

最近各地でゲートボールが盛んに行なわれているが、ゲートボールとは、クロケット、ゴルフやクリケットにヒントを得て考案されたスポーツである。ゲートボールは高齢者に適したスポーツであるばかりでなく、家族ぐるみのスポーツ、職場における男女年齢差なしのスポーツである。ゲートボールは25m×20mの長方形のコートから球を出さないように打って三つのゲートを順にくぐらせた後、ゴールポールに打ち当てると「上り」になる。

③ プレーボールで、一番から順番にスタートライン上に球を置いて第一ゲートに向かって打つ。(第一ゲートだけは、一撃で通過させなければならない。)

④ ゲートを通過すると一点得点更に一打することが出来る。第一、三、ゲートの順に指定方向から通過させた後ゴールポールに打ち当て「上り」となる。

⑤ 競技時間は三十分で得点の多いチームが勝となる。以上ゲームの概要を書いたが当公民館にもゲートボールの公認審判員がいるので只今審判員を中心にルール、実技を研修中、当町にもゲートボールクラブが結成されたので老若男女問いません。希望の方は大熊町公民館内ゲートボールクラブ事務局長相原美起江まで申し込んで下さい。(電話でも可) (生涯体育の理想的スポーツ ゲートボール)

① チームは競技者一チーム五名補員二名、監督一名で構成する。  
② ゲームは、紅白に別れ紅組は奇数(13579) 白組は偶数(246810)となる。

### 農村環境改善センター オープン

御利用の方は7日前までにセンターに申込み下さい。

大 研 修 室	時 間	区 分		摘 要
		昼 間	夜 間	
農業経営研究室	午前九時～午後五時	二,〇〇〇円	二,〇〇〇円	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各室とも昼間使用の場合その使用時間が四時間以内であるときの使用料はそれぞれ額内の二分の一の額とする。</li> <li>○夏期、冬期の冷暖房使用の場合は別に認定し使用料を徴収する。</li> <li>○生活改善実習室使用の場合は燃料代を別途実費徴収する。</li> <li>○映画会の場合は一回五〇〇円を徴収する。</li> <li>○大研修室二室に分けて使用料の小室使用の場合は使用料の二分の一の額とする。</li> <li>○営利を目的とする場合の使用料は基本使用料の五倍の額とする。</li> </ul>
農業技術研修室	二,〇〇〇円	二,〇〇〇円		
生活改善実習室	二,〇〇〇円	二,〇〇〇円		
第一会議室	二,〇〇〇円	二,〇〇〇円		
第二会議室	二,〇〇〇円	二,〇〇〇円		
大 研 修 室		六,〇〇〇円	六,〇〇〇円	

# 台風去りて

八月二十三日当地方を襲った台風15号は農作物に大きな被害を与えて去ったが、そのコースは千葉附近に上陸して、昨年々やませ(北東風)による冷夏に見舞われた地域を北上し二年連続の災害をもたらしました。

古老たちの「冷害は三年祟る」という言葉が身にしみる今秋です。水稲も褐変し大幅減収の所も見られますが、当地方は昨年に較べると垂穂も黄金色に輝きを増してきており、水田農家の表情もやや明るいようです。

その反面大熊特産の梨は八十数年の歴史上かつてない被害となっており、私も果樹専業農家と

して自立を目指しているが、今回の台風禍に大きな打撃を受けています。

八月二十三日、果樹部委員による状況調査を行ない、各園の着果、肥大状況、肥培管理等を見て廻り、今年はず年の冷夏による品質低下、日持不良、糖度低下等の汚名を挽回出来そうだと意気込んでいたが、僅か三日後の台風の襲来で大逆転し、未曾有の落果となり、逢う人ごとにお見舞いの言葉をかけられる状態となりました。

県下の幸水産地も幸水60%、長十郎30%前後、豊水にいたっては80、90%の落果を見、防鳥網は壊滅し、葉は黒変、枯葉し来年の

花芽不良は必至で三年連続の難は免れそうにありません。

収穫を開始しても選果場は活気に乏しく、傷痛み果が多く搬入量は少なく閑古鳥が鳴く状態です。それでも専業経営がかなりあるの

若い後継者も割合多く、世帯主である親爺連も愚痴をこぼしているわけにもゆかず、来年の肥料設計等に取りくんでいます。

昨年の冷夏の低品質果実の改善に薬剤散布やその他の努力により初夏の異常低温も何とか克服し、今年はず年が期待されて、一応昨年の体験は生かされたのですが、来年はそれに台風、暴風に対する施策が課題として追加されました。

館報116号(七月十日発行)に「あれから五年」と題して鈴内梨園地

の近況が報告されていたが、あの若木園も肥培管理だけでなく風災害に対する備えも大きな課題となってきました。

今年はず量が少なく収穫期が遅れているところ(早冷となり晩生梨の価格低迷が予想され、出荷代金が生産費を下廻ることも覚悟しなくてはなりません)が、これで挫折する程悲しんでいるわけではありませぬ。今年の後遺症が来年に現われることは判っているが最少限に止めて、「百姓の来年」という言葉もあるが、来年こそはと頑張る気持で数少ない良果を選果場に運んでいるのが現状です。

鎌田 清 衛

## 男子陸上八〇〇縦走で大会新記録 郡総体 総合では三位

第十九回双葉郡総合体育大会は

九月二十三日双葉町において開催され、陸上競技はか十四種目に熱戦をくりひろげた。各町村とも一段と力が注がれ、白熱したプレーを展開した。大熊町は女子バレーが圧倒的な強さをみせ、六連勝を成し遂げ、また陸上男子八〇〇m 縦走で、秋本、中島、浅野、品田の四君で双葉郡総合体育大会新記録を達成された。なお成績は次の通りです。

陸上競技男子 二位

陸上競技女子	四位
男子バレーボール	五位
女子バレーボール	優勝
家庭バレーボール	三位
壮年ソフトボール	五位
バスケットボール	三位
バドミントン	準優勝
卓球男子	準優勝
卓球女子	五位
庭球男子	三位
庭球女子	四位
柔道	準優勝
銃剣道	三位

### 〈総合成績〉

優勝	富岡町	一〇六、五
準優勝	浪江町	九九、五
三位	大熊町	八九、五
四位	双葉町	八四、点
五位	栖葉町	五七、点
六位	川内村	三九、五
七位	広野町	二六、五
八位	葛尾村	二四、五



## 章 憲 民 町

健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう  
 みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう  
 きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう  
 自然を愛し きれいなまちを つくりましょう  
 進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう

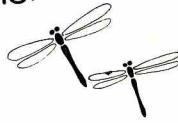




# 文芸

## 詩

### 赤とんぼ



熊小五年 工藤利恵子

赤トンボ

真っ赤な

赤トンボ

真っ赤な夕日の子どものもの

それとも真っ赤なもみじの子

赤トンボ

真っ赤な

赤トンボ

## 教室

熊小五年 石黒京子

朝の教室

クラスのみんなが

まだ半分ねぼけた顔で

教室に入ってくる

授業中の教室

みんなといっしょに

あくびをしている

放課後の教室

水そうのめだかたちと

しずかに

次の日の朝に

教室のおんぼろ時計がまわるのを

まっている。

## 短歌

中山貞夫

秋空の青き深みにはまりつつ

人断つ時の野辺は寒かり

湧き出でし清水の水の澄みたれば

月のふるえの止むこともなし

鎌田清衛

新盆の燈籠掲げる家ありて

影絵のごとく月は照らしぬ

台風禍に搬入少なき選果場に

雀おどしの音もときぬ

鈴木百合子

夏の陽を背に受け競う校庭の

消防士等に歓声沸き立つ

木下千代子

幼な孫の帰りし部屋は怪獣や

石ころなどの転ろがりてあり

## 俳句

猪井静枝

頑なの老へてひとりや釣糸

雑草に書一顔蕨と絡みけり

川木裕子

凌霄花の落花をよけて通りけり

撫子を盗り来しうしろめたさかな

河西カツ

庭掃除終へし安緒や長書一寝

背を伝う汗も拭かずに墓掃除

菅野ミヨ

かぶと虫土産に下げしお盆客

梔子の夜目にもしるく香りけり

佐久間信子

洲いくつ青く流るる天の川

良き土用続き米の値横這いに

高野昭二

手花火の子に灯台の灯のめぐる

佐藤祐植

みのり増す稲穂にかかる秋雨に

ぬれてみだれぬたしかさを見る

二学期を明日より始む教室に

机拭き終え子等を迎えむ

松本ミヨ子

湯の里に旅して語る昔日の

苦しき日々の子育ての頃

川木裕子

枕辺に見舞ひし吾れの手をとりて

もの云えぬ父はただ涙する

吉岡友子

なれぬ道ハンドル握るわが息子

無事に着くかとおちつかぬ夫



無住寺や蟬の骸を蟻の曳く

武内よね

行きちがふ児のポケットに蟬の声

盆近し小銭にかへて孫を待つ

中山安子

父母の墓たれよりも早く来て洗ふ

嫁病みて看護のつかれ夏の日

結城千代

珊瑚樹の実ずっしりとまだ青し

取り逃がす蟬ぢちと鳴き尿って行き

中山貞夫

病院の中庭四角青ぶどう

通草蔓墓のありかは変らざり



## 糠塚大尽

ぬかつかだいじん

むかしナ。糠塚っていう所に  
大尽さまがいだんだと。糠塚って  
川内の毛戸の近くの山ん中の部落  
なんだがナ。むかしは野上村だ  
ったんだと。  
この大尽さまはナ。鉄をつく  
って大もうけたんだと。むかし  
請戸の浜に志賀七郎っていう鉄  
商人がいてナ。この人南部(岩  
手県)から荒鉄買って来てこれを  
山ん中の人に売ったんだと。山の  
人たちは炭をやって製鉄したんだ  
と。この鉄をつくるにはものすご  
い炭が用だったそうナ。  
この鉄をかじやに売ったんだと。  
このころの鉄は今の何倍も高かつ  
たんだと。  
糠塚の大尽さまは請戸から牛に  
鉄をつけて手岡、五枚沢を通して  
糠塚まで運んだんだと。またよい  
鉄にしたものは牛につけて中屋敷  
から古道、二本松の方に売ったん  
だって。  
だから大尽さまはお金持ちにな  
ったんだと。それで考えたのが、  
毎年もみずりしてすてた糠の中に  
かくしておいたんだと。また金の  
鶏もこの糠の中にかくしておいた  
んだと。  
ところが大判小判も長い間日の



今も糠塚はそのまま残っている  
そうナ。  
(話は糠塚の草野さんのおばあ  
さん、中屋敷の会田二郎さん  
から聞いたのをまとめました。  
文責 松本幸一)



### 全世界の平和を

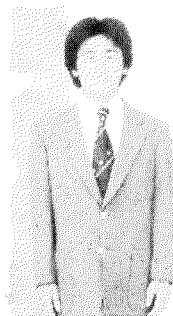
皆さんには新聞等ですでに御承知とは存じますが戦後三十六年目にして弟留雄(当時二十一歳)が特攻隊員として出撃の様子を戦友から知らされ、その感想をここに記させていただきます。

弟は去る昭和二十年四月十一日夕闇せまるころ出動命令を受け鹿児島県串良基地より同じ特攻機に高橋忠元二飛曹と、戦場で死にたいと望みながら破傷風のため病死した戦友の分骨を胸に抱き、今日まで私達遺族を探し続けてくれた



元陸軍大尉高橋三徳さん(長崎県出身)初め多くの戦友達に見送られ沖縄海上に出撃し一時間後に敵艦発見の第一報が司令部に、そして一番機これより戦艦に、二番機巡洋艦にと次々と敵艦隊に突入し、弟達は「只今より空母艦に突入致します。」と報じ南海に散ったことを知らされました。  
童顔残る若人が、そして一家の柱とも云うべき夫や、我が子が国のため平和を祈り、大陸に海に、そして空へと散って行ったことと  
思います。  
去る八月二十七日前記高橋三徳、大沼嘉朗両氏元上官の訪問を受け弟達最期の報告を聞くに誠に戦争は悲惨で残酷であるとしみじみ思っています。ここに私は両氏の永年に亘る御心労に感謝申し上げますと共に弟も何よりの供養であつたと地下で喜んで居る事と存じます。只々今時大戦で戦没の全国、そして大熊町の二百四十余柱の英霊の御冥福をお祈り申し上げますと共に私自身戦災体験者でもあり平和の大切さは切実に感じさせられます。平和の日々に恵まれてはいる現在戦争の悲劇は二度と起こらない様全世界の永久平和を祈念いたします。  
大川原字南平二五一 叶 信夫

### 日独スポーツ少年団に参加して



今までの生活で、三週間がこんなに短かく感じたことはない。この期間中、数多くの人々に出会い感動したことはない。殆どの生活が民泊、言葉に対しての不安が大きかった。ハンブルグでの七日、ドッセンハムの四日、フォルツハムの四日間は、それぞれの家庭

### 「古き道具は語りかける」

#### 国立民族博物館をみて

過ぐる日、大阪市の日本万国博覧会場の跡地に建てられた、国立民族学博物館を見学する機会を得た。

三万平方メートルの床面積を持つ博物館の広大さもあることながら、世界各地から集められた九万五千点に及ぶ資料が、整然と陳列されているのにびっくりさせられた。僅か二時間という時間制限の中での見学であったが、「一日がかりでじっくりみたい」とは、私だけでなく、同行者一同の声であった。

山岳地・草原地・多雨地・乾燥地・あるいは孤島と、さまざまな

での生活だった。ドイツにも両親がいる。そう思う程相互理解が深まった。各地区で涙の別れ、ただの旅行では味わうことのできない貴重な体験ができた。ドイツには夏時間と冬時間があり、今(七月二十一日)は夏時間で夜十時頃暗くなる。子どもたちが砂場で九時半頃まで遊んでいる。こんな調子で生活のリズムが変わってしまった。ドイツ人は一日の生活の仕方が実にうまいと思う。余暇の考え方が違う。日本人は余った時間という考え方が広く浸透しているが、ドイツ人は、余暇は自分からつくりますものと、ただぼんやりと過ごすのではなく、スポーツ、読書、音楽等に使っている。社会の仕組みが違ふといえはそれまでであるが、見習うべき点ではなからうか。ドイツ人はスポーツが盛んである。殆どの人がクラブに所属してスポーツを楽しんでいる。驚いたことに六十歳位のおばあさんがプールに泳ぎにきていた。社会体育では先進国であると思った。又人と人の交わり、特にドイツ人と仲間づくりは素晴らしかった。外国に行った人たちは日本国の素晴らしさを再認識するというのが、私もつくづくそう思ったがドイツも恋しい。この同時交流で得たことを大切に、今後の暁スポーツ少年団活動の糧にしたい。

暁スポーツ少年団 石橋利広

自然条件(気候・風土)の異なる土地に住む人々が、その土地の悪条件を克服し、生活に適應するたため、それなりに工夫した跡をみるにつけ、人間(祖先)が、絶えず続けて来た努力と、知恵の偉大さに深い感銘を覚えた。

自然条件に立脚した住居、風土に密着した農耕具・魚具や衣服は言うに及ばず、茶器や食器にいたるまで、衣食住にまつわる道具(用具)の一つ一つが、「どうだ」と語りかけているようであった。いや、その時代に生きた人々が、「物の大事さ」と生きる事の尊さを問

いかけていたのかのようであった。現代の恵まれた衣・食・住と比較するならば、それは非文明的であり、まことに幼稚であるかもしれない。が石器から銅器そして鉄器時代へと移り変わる中で、その時の流れに應じて、知恵をしぼり、新しい物を生み出し創り出して来た人々のたくましさ、すばらしさに感動せずにはいらなかった。大小さまざまな道具は、言葉に出して話しかけてはくれないが、「人間の心を語りかけている。」いや、「人としての生き方を問いかけている」と感じたが、あながち私だけではなかったと思う。

大川原 志賀隆文



# 昇段審査に十名合格

## —大熊町弓道会の近況—

四月五日に結成された大熊町弓道会はその運営も軌道にのり着実な歩みをつづけています。現在の会員数は四十六名、週四日の定例練習会も盛況、その他の日でも道場は活気を呈しています。会員の努力で巻藁や初心者用の弓具、その他の備品もそろい、弓道場としての形も整ってきました。大熊町弓道会として福島県弓道連盟からも認知され、八月湯本で行われた昇段審査には十名の受審者を送り

のです。弓道は競技として当りを競いますが、他の大部分の競技が相手の弱点をついて勝負を決するのに対して、弓は結局は自分自身の心との戦いであります。見栄、疑い、不安動揺、弱気、恐怖、卑下感など人間の心に宿る陰性を払拭し、克己、冷静、忍耐、決断力などの気持の充実に努めなければ良い弓はひけません。こうなると弓道はまさに人間の生き方の追求であります。今、大熊町弓道会に集う人たちは、懇親会なども回を重ね、毎日和気あいあい楽しく弓をひいてお

つマンモス四年を担任したことがあるが、それ以外は来る歳、来る歳、高等二年を担任した当時熊町には優秀な教員が多かったが、なぜか健康のすぐれない教員も多く次から次へと物故して行った。私も胸膜炎を患い、三か月入院した

りますが、一方で弓道には先に述べたような高い境地のあることを悟りつつあります。

現在、会員たちは十一月に郡山で行われる審査をめざして頑張っています。私達は、会員の中であまり練習に参加されていない方々にもう一度奮気を期待し、同時に新しい方々が増えますよう願っています。 (文責 吉田信雄)



# 私の健康法

少肉、多菜、少塩、多酢  
少車、多歩、少怒、多笑  
少話、多聞、少蓄、多施  
老後のほけ防止策  
考える。書く。働く。辛棒する  
笑う、が秘訣だ。  
下野上 池田 徳治



# 編集後記

◇焼畑から立ち昇る白い煙が、山の向こうに沈む夕日に映し出されて非常に美しい、今日この頃です。  
◇田んぼの黄色いジュータンも一日と刈り取られ、まさに秋たけなわといった感じがいたします。  
◇館報一七号をお届けいたします。寄稿いただきました方々に厚くお礼申し上げます。  
○館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度。  
① 主張、産業、教養、文芸に、関するもの何でも結構です。  
② 政治的な色彩を帯びたり、個人非難に属するものでないこと。



# 影を慕いて

小高町羽倉 木幡 正

が辛い回復も早く再び教壇に立つた。行津の金沢孝重さん宅の東独立家屋に親子三人寄宿したが、金沢さんからは親身に勝る世話になった子ども二人増えて親子五人となった。私は其の後西白河郡矢吹小教頭へ転出、大東亜の戦雲急を告げる折りだったが、二年して校長となり東白河郡竹貫、石川郡中

あの高燥な校舎、校庭、熊川のせせらぎ、あ的大海の山、後の人此の人萬感胸に迫って憶いは限り

作者は、相馬郡金房村羽倉字日向にて出生。  
1 大正十一年三月、福島師範本科卒  
2 昭和五年八月三十一日、熊野町尋常高等小学校に本職  
3 昭和十二年三月三十一日、吹上尋常高等小学校に転任  
4 在職約七年、現在小高町に住んで余生を送っておられます